

第2章

東京プログラム

1 東京プログラムについて

外国参加青年は、9月27日（火）の午前にオリエンテーションを受けた後、27日（火）午後から29日（木）までの「国際青年交流会議」では、日本参加青年と共に、環境・教育・文化の3コースに分かれて、ディスカッションや課題別視察を行い、29日（木）には、三日間にわたる活動をまとめた成果発表会を行った。9月30日（金）にはボランティアの日本青年の同行のもと、都内体験プログラムに参加した。

2 国際青年交流会議:ディスカッション・プログラム (9月27日～29日)

環境コース

◆テーマ

水資源の持続可能な活用と循環のために青年ができる取組

◆コースの目的

私たちが日々使用している生活用水、農業や工業で使用する水など、水は地域を問わず私たち人類にとって必要不可欠な資源である。一方で、必ずしも世界中の誰もが安全な水や衛生施設にアクセスできるわけではなく、持続可能な水資源の確保は人類共通の課題である。コースを通して、参加青年は人類共有の財産である水に関し、その循環や消費について理解を深め、自国における水に関する課題の解決に取り組めるようになる。

◆コースのねらい

国によって自然環境は多様であり、十分な水資源の有無やその消費量及び価値は異なる。各国における水に関する課題を共有するとともに、安全な水を将来的に安定して供給し続けるために参加青年ができる取組について考える。

◆事前課題

- (1) (a) と (b) についてまとめたものをディスカッションで発表できるように準備する。
 - 自国の水の価値（水道水の料金、飲料水の値段（通貨はドル）、主な水資源とその保有量など）
 - 自分が1日に使う水の量と用途（水の消費量、供給や水循環の関係についてのディスカッションに活用）
- (2) 1) ～ 3) のうちから興味のあるものを選び、自国の関連する取組で、a.良い点や広めたいこと、b.課題とその解決策、aもしくはbのどちらかを調べ、それらが自身の暮らしにどう関連しているかをA4用紙1枚以内にまとめ、9月5日までにメーリングリストで提出する。
 - 飲み水と健康（上水道、水道原水などの水質と健康とのつながりなど）
 - 生活用水（下水道、水質汚染、水のリサイクルなど）
 - 食料と水（仮想水(バーチャルウォーター)、農業用水など）

◆9月28日課題別視察先

南房総広域水道企業団大多喜浄水場、ブラウンスフィールド

◆環境コースのスタッフ

アドバイザー： 山口 隆司（国立大学法人 長岡技術科学大学大学院 教授）
コーディネーター：西森 里奈
実行委員： 竹中 里帆
実行委員： 小池 茉那
実行委員： 飯島 葉月

日時	プログラム	場所
9月27日 (火)		
10:45-11:45	国際青年交流会議オリエンテーション	成田エクセルホテル東急
12:30-13:45	昼食交流会	
14:00-15:30	[課題別ディスカッション 1] ・コース概要の紹介 & アイスブレイキング	
15:40-16:40	[課題別ディスカッション 2] ・事前課題の共有	
16:50-17:35	山口隆司アドバイザーによる講義	
17:40-18:00	[課題別ディスカッション 3] ・講義に関する意見交換	
19:00-20:30	夕食交流会	
9月28日 (水)		
8:00	課題別視察先 1 へ向けて集合・出発	大多喜浄水場
9:30-10:45	課題別視察 1：南房総広域水道企業団大多喜浄水場 ・施設見学、レクチャー	
11:15-12:45	課題別視察 2：ブラウズフィールド ・施設見学、レクチャー、ディスカッション	ブラウズフィールド
12:45-13:45	ランチ交流会	成田エクセルホテル東急
15:30-17:30	[課題別ディスカッション 4] ・課題解決のアプローチを考える	
19:00-21:00	文化交流会	
9月29日 (木)		
9:00-10:00	[課題別ディスカッション 5] ・参加青年が自国で取り組むアクションプラン	成田エクセルホテル東急
10:30-12:00	ホテルニューオータニへバス移動	ホテルニューオータニ
12:00-13:00	昼食	
13:00-15:00	課題別ディスカッションまとめ	
15:30-16:30	成果発表会	
17:00-18:00	評価会	
18:30-20:00	レセプション	
20:15	日本参加青年出発、国立オリンピック記念青少年総合センターへバス移動	



環境コースで取り組んだ内容は、水環境問題に関して、事前課題、環境意識が高い取組施設の見学、チームとしての水環境課題の解決方法づくり、及び青年として取り組むアクションプランづくりです。事前課題としては、1) 飲料水と健康、2) 生活環境に関わる水、及び3) 食料と水、について調べてもらいました。環境コースでは、四つのチームを作りワークショップ形式により議論を進めました。

まず、事前課題に関して、各自がチームのメンバーに紹介し、各国の水環境の現状・問題を共有しました。次に、その中から水環境問題に関して青年として達成すべきゴール・目標を設定してもらうこととしました。しかし、実は、水環境に関してバックグラウンドが異なる青年が、目標を一つにすることは難しいことです。ましてや目標を達成するための課題解決方法までを導き出すことは更に難しいことです。そこで、限られた時間の中で、多様な分野の人々が交流したときに、少数意見もいかしつつ相互理解しながら最終的な

課題解決方法を導き出す5段階法のロジカルシンキングの手法を活用して議論を進めることにしました。課題解決方法の策定では、マーケティングの考え方も取り入れました。参加青年は、集中力を持ってそれらを使いこなし、チームとして水環境に関する課題解決のアクションプランを導き出しました。議論の内容はとてもユニークで未来に向けてとても良い要素が多かったです。チームとしての助け合いも積極的で良かったです。

さて未来に向けて、青年が、自分自身のため、広く世の中のためにアクションを起こすことが期待されます。環境コースでの経験もいかし、多様な場面で、青年として、ゴール・目標を考え、それに対する現状を認識し、課題を発見し、課題解決方法を考え、実行されることをお願いするところです。

真摯に取り組んでいる青年の姿は美しいです。ありがとうございました。

環境コースに集った参加青年たちは、各自様々な問題意識を持っていました。初日はそのモチベーションを全員で共有し、まずは資源の使い方をグローバルな目線で考えることを目的としたアイスブレイクゲームを行いました。事前課題の段階で「飲み水と健康」「生活用水」「水と食糧」という三つのテーマから一つを選んでもらい、ディスカッションのチーム分けに反映させました。同じテーマを選んだメンバーでチームに分かれた後、まずは事前課題を共有し、国によって自然環境や経済状況が異なることで引き起こされている問題の相違点または類似点を理解し合いました。水を含め環境問題は多岐にわたっていること、そしてその解決策を具体的に導くため、山口アドバイザーによるロジカルシンキングの講義がありました。チームで一つ解決すべきトピックを決め、それについての問題点・気づき・アイデアを繰り返し話し合い、最後は解決へ向けた個人的なアクションプランを導き出すことがこのコース・ディスカッションのねらいです。

翌日の視察先は2か所訪問しました。1か所目は日本の技術と一般的な日本の生活水準を垣間見ることのできる地域の浄水場。そして2か所目は井戸水を使うなど環境に負荷をかけないライフスタイルを実践しているオーガニックコミュニティです。参加青年たちはこの2か所の訪問により、一つの問題を様々な観点からより深く捉える機会を得て、環境問題を資源と個人の関係性という観点にまで落とし込み、本当の意味で実現可能で持続可能な解決策を探りました。

最終日には、各チームが一つにまとめられコース全体の成果として“Step by Step”というメッセージを込めたプレゼンテーションを行い、ディスカッションの成果が十分に発揮されました。持続可能な水資源の確保と保全に向けて、たとえどんなに大きく、また遠くの国の問題でも、同じ地球で暮らす自分たちにできることは必ずあるという意識の共有が、このディスカッションを通して参加青年たちが得た最大の成果だと思います。

日本参加青年 リトアニア派遣団 國生 昌志

我々は「水資源の持続可能な活用と循環」をテーマに、6か国の外国青年と共に三日間議論を行いました。私がこのコースに参加した理由として、様々な国を訪れる中で日本は極めて水資源が豊富であることを実感した一方で、自分はそのありがたみを当たり前であると感じているのではないか、という考えに至りました。そして、今後も日本が豊富な水資源を享受するために、いま行動を起こすことが大事であると思い、参加を決めました。議論を行う中で、有機農業を行っている方々からお話を伺う機会がありました。そこで

は、普段の我々の生活の中でも意識すれば、環境を守ることができる、という教訓を学びました。また、様々な国の青年と各国の現状を共有し、テーマについての知見を広げることができました。最終発表では、水資源を大切にすることを向上させる取組を紹介しました。水資源について考えることができたのは無論、7か国の青年が膝を突き合わせて、三日間かけて議論できた経験は何にも代え難いものだと強く感じています。ここで得られた経験をいかして、今後は他の環境問題についても議論を深めていきたいと思っています。

日本参加青年 リトアニア派遣団 才木 瞳美

環境コースでは、課題別視察として、大多喜浄水場とブラウズフィールドを訪問しました。日本の科学技術を利用して綺麗な水を提供する大多喜浄水場と、できる限り化学物質を利用しない生活を提案するブラウズフィールドを見学したことは、招へい青年と日本青年の両者にとって衝撃的でした。視察後のディスカッションでは、視察で学んだことや各国の異なる水環境を報告し、政策を考えていきました。一番ディスカッションで困難だったことは、各々に異なるバック

グラウンドの中、一つの政策に落とし込むということです。互いの意見の対立の中に妥協点を見付け、またアイデアを折衷することの大変さを痛感しました。私は、このディスカッションを通して、参加青年は水の重要性を再認識し、また環境の異なる世界各国が何かを決定するということの難しさに気付くことができたと思います。この経験をいかすためにも、今回の国際青年交流会議を忘れずに、日々活動していきたいと思っています。



私が本プログラムに参加した動機の一つに、青年たちとの様々な意見交換の機会としたかったことが挙げられます。日本をはじめ参加各国とドミニカ共和国には違いがありますが、特に各国に影響を及ぼしている課題については、多くの共通点があります。青年は創造性に富み、未来の大人ですが、その青年が様々な意見や解決策を分かち合い、共に最善の解決策を見出すことができます。そして私たちはそれを達成したと思います。

プログラムでは、新たな友情を築き、様々な観点や意見を述べる機会がありました。私たちは世界を変えたいと願う、青年の小さな集団にすぎないかもしれませんが。しかしウルグアイの執筆家エドゥアルド・ガレアーノの言葉“A bunch of small people, in small places, doing small things can change the world.”(少数の人間がそれぞれの場所でできる活動、たとえそれが小さなことであっても、積み重なれば世界を変えることができる)にもあるように、献身的で思慮深い人々が集まれば、偉大な変化を達成する強力な集団になるのです。

参加各国が直面する様々な状況や課題は、私たちにとって大きな問題に思えるかもしれません。しかし豊かな創造力とすばらしい革新的なアイデアが、私たちの中からたくさん集まれば、実行可能な優れた解決策が生まれるのです。課題解決に向けて青年が発揮する全ての活力、頭脳、想像力、才能を、社会は必要としています。

実際、私は今回のプログラムを通じて生涯忘れることのない経験ができました。私たちは多様な人生観と数々のすばらしいアイデアと考えを各自持ち帰り、母国のためにいかしたいと思います。

環境コースへの参加は、私にとってかけがえのない経験でした。世界を救いたい、そして自然の恵みである貴重な資源を備えた、より良い地球を将来の世代に

伝えたい、と願う若者が大勢いることが分かったことは、すばらしいことでした。

この優れたコースに参加できたことに感謝します。スタッフがいつも親切で、よく準備し、手助けしてくださったので、私たちは興味深いアイデアと計画について話し合うことができました。すべてが良く企画され、きちんと組織されていました。

プログラムは全体オリエンテーションから始まり、様々なディスカッション(全5回)に取り組みました。ディスカッションの合間にトピック関連の講義を受けたり、関連施設を訪問し、大多喜浄水場で水の浄化プロセスを見学したり、ブラウズフィールドで環境に優しい暮らしを見ることができました。最後の訪問先は、環境に優しい暮らしをどのように実現するかという意識を私たちに植え付けてくれたので、非常に良かったです。

ディスカッション・コースを通じて分かったことは、少人数でもチームになればすばらしい成果が挙げられるということです。最初は困難もありました。皆自分のアイデアが一番だと思っていたからです。しかし皆のアイデアを組み合わせて改善する方法が徐々に分かってきました。最終的に困難から学ぶことができました。なぜならば困難はあらゆるところにあり、たやすくはないけれども、最後には克服できるからです。

また、私たちには世界を大きく変える力がすでに備わっていることが分かりました。必要なのは、周囲の人々と一緒に行動を起こすことです。このことが非常に重要です。すべての大きなプロジェクトは、簡単な最初の一步から始まります。さあ、より良い場所に住むために歩き出しましょう。

この魅力的なプログラムに参加させていただいたことに対し深謝いたします。ありがとうございました。

9月27日から29日まで、日本、ドミニカ共和国、ラオス、リトアニア、オーストリア、バーレーン、パプアニューギニアの7か国の青年が集まり、環境という一つのテーマの下、水、水質汚染、水供給等の様々な問題についてディスカッションをしました。グループのメンバーは、重要課題及び各国の状況を比較検討しただけではなく、知識と経験を得る機会にも恵まれました。特に山口先生からはインダス川と汚染等に関する専門的な情報を頂きました。最も印象的だったのは、課題別視察でした。最初に訪問した大多喜浄水場では、職員から浄水処理に関する説明を聞き、河川の水を飲料水にするための様々な設備を案内していただきました。

千葉県のコミュニティ、ブラウズフィールドの課題別視察はすばらしく企画されていました。私たちは心からのおもてなしを受け、様々な自然食材と手作り素材を使った美味しい食事をいただきました。その後、カフェや幼稚園、酒樽で作った露天風呂など、ブラウズフィールドの見どころをいろいろ見せていただきました。

私たちは新たな情報をたくさん得て、セミナールームへと戻り、新しいアイデアを盛り込んだディスカッションに取り組みました。世界各地で水問題への関心を高め、水供給の状況を改善するための道のりは長いですが、そのために様々な考えを取り入れ、独自のプロジェクトを企画することに私たちは合意しました。その手始めとして、国際的なNGOを立ち上げ「飲む本 (drinkable book)」を普及させるなど、水に関する実際の主要課題に焦点を当てた計画を立てました。

このコースに参加したことは、私にとってすばらし

い経験でした。私たちは議論を深め、様々なアイデアを交換し、各国の状況についていろいろと語ることができました。オーストリアでは水の供給について日頃から問題にされないため、世界の他地域の問題について話を聞くことができ、非常に興味深かったです。その他にも、課題別視察から強い印象を受けました。最も記憶に残っているのはブラウズフィールド訪問です。母屋のこぢんまりとした裏庭でいただいた食事は、ヴィーガン向けのメニューながら美味しくて本当にすばしかったです。ガイドに案内していただきながら、そこでの生活について詳しく話を聞き、質問ができたのもとても良かったです。概して、私はこの農園のシンプルで満足感のある生活スタイルに、様々な点で魅了されました。

水問題に関する幅広い情報を得たことで、私自身も新たな「学び」が大いにありました。環境コースを通じて、自国の水の質の高さと豊富さに対する感謝の気持ちが確実に高まりました。これらの資源は、あって当然のものではないので、もっと責任を持って私たちの水を大切に扱わなければならないと感じています。ディスカッションを重ねることで見えてきたこともあります。世界にはオーストリアほど水資源に恵まれない国がたくさんあるということです。そのため、私は飲料水を手に入れることが困難な人々の環境を改善するための一助になりたいと思います。私たちが率先して節水のための努力をすることは、最低限の義務です。世界中の人々にとって最も大切な資源である水を、私たちは慎重に責任感を持って扱わなければならないのです。

